



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733

掲示板法話

遊び心で子供と接する「こころに敬老の心が育つ」

残暑と喧騒の選挙が過ぎ去り、虫の音が聞こえる九月です。九月には「敬老の日」と「秋分の日」があり、今年は何と五連休。それは結構なことですが、「敬老」も「お彼岸」もかすんでしまう雰囲気。こんな社会でいいのでしょうか？

あるお宅の中陰法要に参りました。

普通前列にはお年寄りの人が座り、若い人や子供は後ろのほうに固まる傾向ですが、小さな坊やが最前列に済ました顔で正座しています。「坊や、えらいね。足痛くないの?」と尋ねると、「大丈夫!」と傍に座っているKさんの顔を見上げました。「Kさん、この子と仲良くすね」と声をかけました。「ええ、お葬式の間につきりお友達になりました」とのことです。すると坊やが「Kさんと写真、一緒に撮ったよ。こえんさん、もつて来るわ」と写真を見せてくれました。

「正信偈」のお勤めも、お念仏のところになると一段と大きな声で唱和します。「お経、上手やね」と誉めると「Kさんに教えてもらったんだ!」とKさんの顔を見上げてニコリしていました。

Kさんとの子の祖父がいとこの間柄ですから、坊やとKさんは今回が初対面です。このほほえましい姿を見ながら、

Kさんのことを「良寛さんのようだな」と感心し、老い行く者のあり方を教えられたような気がします。子供は「誉められること」によって自信をもち、居場所が与えられます。また、高齢者ならではの温かさにより、若い両親ではまねのできない情操教育が施されます。

良寛さんは越後(新潟県)の出雲崎で代々名主を務める旧家の出身ですが、出家して禅僧となりました。後年故郷に戻って子供らと屈託なく遊びつつ、心和む歌を残しています。

「子供らと手まりつきつこの里に遊ぶ春日は暮れずともよし」

この歌に、おらかな「遊び心」が躍動しています。「遊び」と「遊び心」は似て非なるものがあります。大人の遊びの代表、ゴルフには計算や下心が潜んでいます。(勿論法律違反ですが)野球を見ても賭ける人たちがいます。年をとれば少しは遊び心を持ちたいものですね。「遊び心」とは全く見返りを求めない仏様のような心の働きだと思います。

「正信偈」の中に「遊煩惱林現神通」という言葉が出てきます。煩惱の林のよいうなこの世に遊が如く働きかけ、神通力(不可思議な力)を以て我々衆生を



☆行事ご案内☆

☆「追悼法要」9月20日(日)午前・午後

午前10時:物故者、午後1時:戦没者



法話:石川欣也先生(大和郡山)、

主催:小杉町仏教会、小杉町長寿会、三全仏教婦人会

※9月第三日曜日夜の例会は、追悼法要のためありません

♪三重組コーラス♪

※9/9(水)午前10時半・陽光苑お誕生会慰問32回目!

※9/26(土)夜7時半、小杉練習2009「御堂演奏会」楽譜

10/31(土)夜練習、11/3午後光了寺、11/15夜西

勝寺出演、11/22(日)御堂演奏会大型バスで参加7回目

◇キッズサンガ

9/5(土)午後4時お経、ゲーム、紙芝居など。

※毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもつけます!年中無休です

ご褒美ガム、鉛が大人気。放課後は境内や卓球場が子供の遊び場

新しいお友達が増えてきました。どなたでも入れます。

◇一線会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

※中庭の一部に印刷室造営。椅子の出し入れがしやすくなりました

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索OK

新着情報や「住職と坊守のつれづれ日記」おススメ!ほぼ毎日更新!

アクセス10、000回達成。8/13で開設1周年、何でもお気軽に相談を!即返信します。



お教い下さる、という意味ですね。老いの身は仏様のお心に任せつつ、仏様のよいうな遊び心で子供たちと接する、そこに豊かな「敬老精神」が育つのではないのでしょうか。若い世帯に余裕がなくなっている今日、高齢世代にできる大切な役割だと思いがいかがでしょうか。それは、亡き方々への敬いの心を育てる絆です。生前気づかなくても、歳月を隔てて、温かく導いて下さった方々の温かさ、かたじけなさやよみがえってきます。いとおしきは私たちが彼岸(お浄土)に道を拓いてくださる仏縁ですね。



09.8.8皆でスイカを美味しく頂きました 善正寺

坊守スケッチ

ホームページ開設から一年を振り返って

早いもので、善正寺のホームページ(H.P.)を開設してから一年の歳月が経つ。開設のきっかけは、ある若者が「お寺へお参りに来るのは面倒だけれども、H.P.ならば、悩みを気軽に相談できる」と言った言葉。もしこの夢が実現できたら、多くの人も対話が出来ると「未来のお寺・バーチャル寺院」の誕生かもしれないと思った。しかし全くの「素人の素人」が始めたことで、手探りの状態が未だに続いている。

H.P.より先に、寺報の作成は十七年以上経過。毎月休まず五百部発行するだけでも大変。特に母親を介護している時には、止めてしまいたいと思ったことも度々。しかしあの経験を乗り越えられたのだから、H.P.も出来るだろうというのが当初の甘い予測。特に「住職と坊守のつれづれ日記」のブログ更新が一大仕事。この一年間、私は一日も休まずブログを更新し続けた。報恩講、永代経、どんなに忙しくても、疲れきっていても毎日投稿。ネタ探しは、専ら朝の散歩。誰に誉められるわけでもなく、「書いて何になる?お前の自己満足だろう」と言われようとも、一度決めたことは行動に移すというのが、私のこだわりかもしれない。また、六年前から音楽のブログでもない私が、三重組コーラスの活動を任さ

れた。教科書があつて、マニュアルどおりにすれば簡単だが、全く未知の世界への挑戦が続き、苦勞している。ところでH.P.開設から一年が経ち、見えてきたことを次に書いてみよう。

H.P.は、見返りはないが、嬉しい手ごたえはあるというのが、正直な感想。お寺は昔からの檀家さんや、お葬式でご縁が出来た門徒さんを大切にすることに熱心(?)であるが、それ以外の悩める人々には、手を差し伸べることは苦手だ。悩める人々も、お寺は敷居が高くて相談しにくいと言う。H.P.を開設後、元教え子や、嫁いだ娘さん、外国に住む人からコメントやメールが届いた。特に若い世代からの反応に、嬉しい手応えを感じた。本堂で法話を聞く形式は、多数の中の一人であるが、メールは一人の対話で返信が出来る。お釈迦様も、親鸞様も一人対一人の「対機説法」をされたのではないだろうか? 「命は大切だ。命を大切に、何千何万回言われるよりも、あなたが大切だ。誰かがそう言ってくれたら、それだけで生きていける」というCMがあつた。一人一人の心に仏様の教えを届けるためには、ホームページは有効な手段だ。相手が心を開けるためには、先ずお寺の人間が、自分をさらけ出すこと

が必要。そうすれば、姿の見えない相手とも本音でトークが可能。また日々更新する手間を惜しんではならない。おかげさまで開設一年、アクセス数が一万回を達成した。これも皆様の応援、支えがあればこそと、感謝している。

☆寄稿

四日市市 川崎 孝一

☆長梅雨に咲くには咲けど地向けて 漏斗穿める 垂れ朝顔

☆曾孫謂う「ばあちゃん舞妓」湯灌終え 紅さず顔見て 九十五歳の

☆寺報から あふれる光 温かく 心に届き 栄養となる

(お盆になると見えない大切なもの、ご先祖の苦勞を思う。今恵まれていることに感謝して、何があつても、心穏やかに、強く生きたいと願う)

四日市市 釈 恩厚

☆カラオケの発表会 ピアノの孫に 負けてなるかと 意気込み入れて

☆夏盛り 昼はセミの 大合唱 夜は蛙の 声休まらず

小三重組コーラス

☆九月九日(水)午前 陽光苑慰問

☆九月二十六日(土)夜七時半 練習

2009 御堂演奏会の歌6曲

※原則として毎月最終土曜日の夜練習

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇九月五日(土)午後四時より お経・ゲーム・紙芝居。お友達誘って来てね!夕方五時の鐘撞きは毎日。

☆ホットニュース

☆九月二十日(日)「遍律法要」午前十時物故者、午後一時職没者。主催・小杉町仏教会、長寿会、三全仏婦。法話石川欣也先生(大和郡山)関係者の方ご出席よろしく。皆さんお参りを!

☆善正寺のホームページが公開!仏事に

関する相談、お悩み等気軽に。「三重

善正寺」で検索可。

※「住職と坊守のつれづれ日記」がおス

メ、好評!ほぼ毎日更新。おかげさまで

開設一周年、八月十五日でアクセス数

が一万回を突破!今までお寺とご縁が

なかった方や若者、子供の訪問に感謝。

☆カンバ有難う☆

澤田美智江様・赤井淑子様、富田和代

様・斉藤亥十二様・他匿名様多数より

切手、お志有難うございました。

お悔やみ申し上げます☆

☆川崎志家様(九十五歳)・八月三日

合掌

☆ 編集子より ☆ 「善正寺だより」第一八九号をお届けします。◇長い梅雨の後の厳しい残暑が続く、新型インフルエンザが流行の兆候。人の世に不安や不満の種はつきません。◇現代人は不安や不満のはけ口を国や政治に求めますが、多分「大いにおぼつかなきこと」ではないでしょうか?◇昔から「タタほど高くつくものはない」といいます。仏教は「少欲知足」を教えます。現代日本が大切にすべき智慧です。ね。灯火親しむ秋、御身大切に。合掌。

東屋で汗はひ肌は浄土風」散歩時に爽やかな涼風に吹かれてお浄土気分を満喫しました。長かった夏休みも終り、子供達は学校生活へ、最近の子供を観察していますと、子供の世界でも二極化が進んでいます。キッズサンガでお経やドジボールをしていると、門前でたむろしているグループがいます。「君達も一緒に入らない？」と誘いますが拒否。お経組の子も彼等とは遊びたくない様子。「仏様はどんな子供も平等に可愛い」と教えられますが現実には厳しいようです。家庭の事情で親の愛情を充分受け取らないまま大きくなるとゆく子供達、学校や地域で問題を起す、特別視されている彼等、やがて暴走する日が来るのではないかと危惧しています。「お念仏を子や孫に」と言うは易く行ふは難しです。彼らと会話するうちに心を開き、礼儀作法や言葉使い、責任ある行動を少しずつ身につけてくれることを願っています。先日還暦を迎えた私、孔子の論語では「五十而知天命、六十而耳順」と言うそうです。50歳の時、自分の仕事(坊守)を天命と分きまよえ、60歳になったら修養を積んで聞く所全てのものが素直に耳に入ってくる身にならせてもらおうとぞうです。これからも皆様の励まし、お育てを素直に受け止める坊守としての本分を全うしたいと思ひます。九月は二十日(日)午前、午後小杉町「追弔会」があります。講師は石川欣也先生をお迎えします。皆様の御参加をお待ち申し上げます。HPは8万回アクセス達成しました。感謝仰せ申し上げます。平成二十二年九月坊守拝念堂